

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 14 回） 議事要録

日 時 平成 30 年 7 月 12 日（木） 19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 12 名、事務局 4 名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、

小澤（里）委員、上吉川委員、木村文委員、塩澤委員、鈴木（圭）委員、

田中委員、村井委員、木村浩委員

議事等 1 エコプラザ（仮称）の運営等について

2 エコマルシェにおけるアンケート実施報告について

3 環境市民団体へのアンケート発送について

4 その他

1 エコプラザ（仮称）の運営等について**（1）グループワークの進め方**

発言者	要旨
事務局	<p>本日はグループワークのため、進行は事務局が行う。</p> <p>資料 1 は運営形態についての資料で、前回、最初の 5 年間は市の直営とするが、窓口、案内、利用申請、予約や事業などは、顔が見える事業者が行い、全体調整、危機管理、連携の仕組みをつくるなど市が行うべきというご意見があったので、それを踏まえて作成した。「他市施設の状況」は、昨年度の会議の中で資料としてお示しした視察施設について、管理系業務、事業系業務がどのようにすみ分けられているのかがわかると良いというご意見をいただいたため、調べたもの。西東京市と江東区は直営施設のため、管理系業務は全て市や区が行っている。多摩ニュータウン組合から中央区までの 4 施設は、運営を委託しており、全体管理や一般的な事務も事業者が行っている。「建物・設備の維持管理」は、日常的な点検などは事業者が行い、それ以外は市と区が行っている。京都市から港区までの 3 施設は指定管理になっており、すべての事業を企業や外郭団体が行っている。</p> <p>資料 2 は施設の概念と、業務の運営面の議論とを整理したもの。メタボリズムはこれまでベースとなる考え方と基本方針の 2 か所で示していたので、方針の方に残して文言を整理した。他の部分も少しずつ言葉をやさしくしたり短くしたりしている。考え方に違いが出ないようにしているつもりだが、意に沿わない表現になっていたら、次回の全体議論の中でご意見をいただけたらと思う。</p> <p>本日は資料 2 「5 事業系業務の運営」の部分を中心にグループワークをしていただきたい。それぞれの環境のテーマや全テーマに共通する伝えたいこと</p>

	<p>は何か、どんな手法で伝えるか、それをどの空間で主に行い、それを行うためにはどんな人や要素、視点が必要かを考えていただきたい。例として市の事業を資料に記載したので、グループワークの参考にしていただけたらと思う。</p> <p>ワークシートには、事務局の職員が記入する。終了後、各グループから5分程度で、主なものや盛り上がった部分、感想などを中心に発表いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>第12回会議のグループワークのまとめから空間活用例を作成し、各グループに配布した。施設外側については、雨水や緑など、芝生広場を使って見せたり、体験したりする方法が考えられる。施設の中については、「ものづくり」というキーワードを基に、プラットホームの南側には大きな廃材のストック棚やものづくりのスペースを考えた。ものづくりスペースでは、例えばワークショップやセンスの良い家具をつくることができたり、グループワークで意見のあった実験などを行ったりしても良い。プラットホームは、高さもあるので何かを吊るして展示することもできる。ものづくり工房で、ミシンを貸し出すなどといった意見も取り入れ、工具も準備して何かをつくる場にした。</p> <p>廃材をストックするためには、集めて、解体して、分別して、棚に陳列し、供給しなければいけないので、プラットホーム南側は、廃材をキーワードとしたスペースにする。北側はフリースペースとし、運営事業者や市民団体の企画、エコプラザ（仮称）の活動の成果、エコを学びながら子どもたちが遊べるようなものを設置したり、スクリーンを設置して映画の上映会を実施したり、廃材のビンを使ったボルダリングを配置するなど考えられる。</p> <p>旧事務所棟1階の南側はキッチンや相談コーナーとし、人事・世代・情報交流ができるようなエコカフェやエコクッキングなど食品ロスについての啓発やエコに関する相談ができる。北側には、環境について学べる情報コーナーを設け、1階は4つのコーナーで構成されるイメージ。これは確定したものではないが、各グループワークのまとめを基に、仮に整理をしてみた。</p> <p>2階については、プラットホームでは、展示物を吊るしたり、屋根に大きな作品を置くなどができると思う。旧事務所棟の2階には、アーカイブや図書スペースを設けるといった意見があった。</p> <p>本日は、先ほど事務局が説明した資料2「5 事業系業務の運営」の表の部分をグループワークで仕上げていただきたい。</p> <p>環境全般や各環境テーマの何を伝えたいのか、どのようなプログラムを実施するか、それを運営、コーディネートする人はどんな人かなどを各テーブルに配布したワークシートにまとめるのが今日のグループワークの主目的。</p> <p>全てを埋める必要はなく、多くの意見を出していただきたい。例えば、廃材のストック棚で共有する廃材の解体、収集、分別を行う際に、素材にするのを誰が行うかをルール化すれば誰でもできることなど、今までの意見と関連付け</p>

	ていただく。空間の話や大きな機能の話も前から意見が出ていたと思うので、この結び付けの作業を1時間程度でアイデアとしてまとめ、ワークシートを埋めていただきたい。
--	---

(2) 1グループの意見について

発言者	要旨
事務局	<p>このグループでは、事務局の示した環境テーマよりも広い防災や住まい、食文化などと環境を結びつけた意見が多く挙がった。いろいろな分野と環境をつなげて事業をつくった方が、広がりのある事業となる。</p> <p>例えば、水・山・川のつながりから武蔵野市の成り立ちなどを考え、さらに武蔵野市の水道水が地下水であることを知らない市民が多いことから、湧水がなくなっている現状や、川や山をたどれば広域の話へとつながるので、もっと広く考えた方が良いという意見になった。それらのことを知ってもらう手段として、地図づくりや湧水巡り、図鑑づくりや井戸探検隊など、フィールドワーク中心に事業を展開するという意見になった。水の学校のようにフィールドワーク後、体験したことをブレストしたりパンフレットをつくったりしても良い。そしてこれらを実施するためには、アイデアをただのアイデアで終わらせず、形にするファシリテーターが必要となる。</p> <p>食品ロスをテーマに野菜作りをしたり、食文化とつなげて、日本の発酵文化を知る講座を展開し、カビのできる過程を見たり、味噌玉や梅、夏みかんを使ったジャムやシロップの加工品をつくったりするなど、短期間でつくれるものと長期間かけてつくるものとを組み合わせると連続講座を実施することもできる。また、若い子を引き込めるような化学的な実験などを行いながら、学びを膨らませると、エコプラザ（仮称）の役割がどんどん広がるという話があった。他にもたくさんのアイデアが出たので、次回までにまとめた。</p>
委員	エネルギーについての話は出たか。
委員	<p>気候変動や地球温暖化について伝えることは難しく、西日本の豪雨被害など実際にその影響を経験しないとわからない。テレビを見ただけでは、被災者の痛みなどを理解することはできても、気候変動の脅威や怖さを理解することはなかなか難しい。</p> <p>本日は、楽しかったことやためになったことについてのテーマが多く挙がった。それが来てもらう第一歩ではあるが、展示などで気候変動の恐怖を伝えることはできない。それを伝えるためには、運営やファシリテーターの話など、別の段階の議論が必要であると考えたため、特に言及しなかった。</p>
委員長	ヨーロッパと日本の地形の違いが、山川海を考えた時にはある。
委員	補足になるが、武蔵野市という行政上の線引きにこだわらないことや、エコ

	<p>プラザの周辺で必ずしも何かをしなくても良いというのは、面白い視点だった。何かの木を植えてそれを題材にしたワークショップを実施するのではなく、武蔵野市に既にある木があれば、その場所に行ってそこをマップにした方が面白い。</p> <p>地球温暖化の問題は、武蔵野市で線引きされている訳ではない。武蔵野市だけが持続可能であることはあり得ないので、広域的な視点も大切にしないといけない。そうした意味で、「武蔵野市の環境啓発施設」と限定し過ぎない方が良くもかもしれない。</p>
委員長	<p>資料にある打ち水については、気温を下げるために、まさに風が通るようにするにはどうすれば良いかを考える必要がある。緑があり、水があり、というつながりを考えることが重要で、そのためにつながりというキーワードが出て、それが他の地域ともつながるという考え方である。</p>

(3) 2グループの意見について

発言者	要旨
副委員長	<p>一番大事なことは、これをどうやって形にして見せるかということ。それをデザインするコーディネート力や仕組みがないといけない。それがないと、良いことをたくさん言っても伝わらないし、実行できない。アイデアを具体的に実行するプロセスをどうするかが肝である。意見は大体共通しており、食、緑、環境、エネルギーなどのテーマが挙がるが、運営に必要な要素を出すところで煮詰まってしまった。</p> <p>市民や行政、企業、有識者、大学生など、そうしたアイデアを実行できる人が集まって上手く動ける仕組みがつかれると良い。私が大学で行っているアートデザインプロデュースという授業があるが、16年分毎年の報告書が溜まっている。今度それを紹介し、実際にどうやって学生と一緒に地域の課題に向き合ったか、例えば農家と行政が何をやって答えを出したかなどの事例があるので、皆さんに見ていただきたい。エコプラザと共通したプロセスがあり、今後の検討の手がかりが得られるのではないかと思う。</p>
委員	<p>その他にも、雨を楽しむにはこうした仕掛けがあった方が良いのではないかと、緑を楽しむ仕掛けや植物を知ること、種を育てることが大事なので、そうしたプロセスを経ることが良いのではないかとといった議論があった。面白い意見としては、剪定枝の灰をどういう人たちが使っていて、どんな使われ方をしているか、木の枝1本でも利用価値があることを知ってもらうために、灰の研究所があると良いという意見も出て、話が広がったが、それをどうやって伝えるか考える必要がある。</p> <p>先ほどの大学の授業の話から、アートや環境についての学びのプロセスをデ</p>

	<p>ザインするシステムが必要であるという話になった。例えば、高齢者と若者をつなげる際に、こうしたらつながるのではないかなど、プロセスを考えるチームが必要で、そこでアイデアを揉んだ後、出てきた課題を振り分けていけば良いのではないかと、という意見があった。</p>
--	---

(4) 3グループの意見について

発言者	要旨
事務局	<p>最初はやもやカフェから考え始めた。大人のための「専門的な環境の基礎知識を学ぶ講座」を始めてはどうかという意見が出た。企業でも環境に関する基礎的な知識が求められている。第10回会議の委員報告がとても勉強になったので、専門家を講師とし、平日の夜や土日に、サラリーマンをターゲットに講座を実施してはどうかという意見が出た。</p> <p>また、「地球視点を伝えたい」という目的で、普段は自分の身の回りの生活のことしか見えないことが多いが、身の回りにあるものがどこからやってきて、その産地ではどういうことが起きているのかを世界的な視点で伝えたいという意見があった。それを伝えるための手段として、何か既存のものを持ってくるのではなく、みんなで展示をつくることから始めてはどうかという意見が挙げられた。例えば子どものつくる展示や大人のつくる展示、専門的な企業がつくる展示など、いろいろなレベルの展示を、フリースペースなどを使って展示してはどうかという意見も出た。</p> <p>ごみに関することでは、「もったいない精神」として、使い捨てにせず長く使うことを伝えるために、ものづくり工房を使ったプログラムの話が出た。壊れたものを持ってきて直してもらうのではなく、自分で直す、市民同士で学び合いながら直すことが大切。また、直すには部材が必要で、例えば鍋の取手が取れてしまった場合に、取手だけを付けられるようにパーツが揃っていると良い。日常的に廃材を分別・解体するプログラムがあり、そこで分けたものがストックヤードにあると良い。</p> <p>他にも、市内の農地が減っているという課題から、農業を維持するために、例えば野菜の直売所を設け、そこからエコクッキングや地産地消へとつなげていければ良いのではないかとという話があった。</p> <p>運営についてもいろいろな意見が挙げられたが、結論としては力のある支配人がいれば良いという話になった。聞く耳を持ち、フットワークが軽く、地域とつながることができ、巻き込み力がある人で、市民同士の交流を促すことができるような人が良い。</p> <p>けやきコミュニティセンターやアーツ千代田 3331 の運営が良いので、参考にしたいという意見や、企業の出向先にしてはどうかという意見もあった。</p>

	<p>評価に関しては、ソーシャルインパクトの視点を持つてはどうかという話があった。例えば、ごみがどの程度削減され、ごみ処理経費が下がる、ものづくり工房で高齢者が生き生きとものをつくることによって、高齢者が元気になり医療費が下がるなど、エコプラザ（仮称）独自の指標で目標を定めて、市民生活への波及効果も踏まえて検証できれば良いという意見が出た。</p>
事務局	<p>本日の各グループの意見は、次回会議までに資料としてまとめ、皆様に見ていただく。</p>

2 エコマルシェにおけるアンケート実施報告について

発言者	要旨
事務局	<p>6月10日（日）のエコマルシェでブースを出店し、第12回会議で提示した模型を使って説明をした後、アンケート調査にご協力いただいた。当日は雨にも関わらず102名の方にご協力いただいた。委員主催のエコプラザ（仮称）の現場を見学するツアーに参加された方も来てくださった。</p> <p>資料3の年齢別データのとおり、今回は小学生が24人と多かった。「エコプラザ（仮称）にどのような機能があれば行ってみたいか」については、1番多かったのが「環境学習・体験の場の提供」、次に「環境遊具・環境教材などの貸し出し」となった。クロス集計のとおり、小学生の意見がかなり多く反映された結果だとわかる。</p> <p>自由意見欄の「エコプラザ（仮称）への具体的な要望」については、以前と比べて内容がかなり具体的になってきたと感じている。模型を示したこと、またプラットフォームの活用アイデアを募集したこともあり、イメージがつかみやすかったのではないかと感じる。プラットフォームの活用アイデアには、87名の方に協力いただいた。「環境学習に関すること」では水車や風車での発電体験コーナー、「子供の遊び場・遊具に関すること」では室内プールや動物ふれあいコーナー、室内アスレチック、ターザンロープといったアイデアが寄せられた。「イベントに関すること」では、流しそうめん大会、キャンプ、その他には天井を空模様にするなどの変わったアイデアもあった。小学生が書いた絵を抜粋して載せている。動物とのふれあいや授乳室、赤ちゃん用の部屋などの意見のほか、芝生やくつろぎスペース、なるべく静かに、ハンモックなどのアイデアもいただいた。これから市の考え方をまとめていく中で使っていきたい。</p>

3 環境市民団体へのアンケート送付について

発言者	要旨
事務局	<p>今週、環境市民団体代表の皆様へアンケートを送付した。各課にアンケート</p>

	送付先の住所などの確認依頼を行い、各団体回答の意向を確認した結果、最終的に 53 団体となった。アンケート結果がまとめ次第、報告したい。
--	--

4 その他

発言者	要旨
事務局	次回の会議日程は、次第に記載したとおり。前回会議の議事要録の確認は 18 日までに、確認していただきたい。